

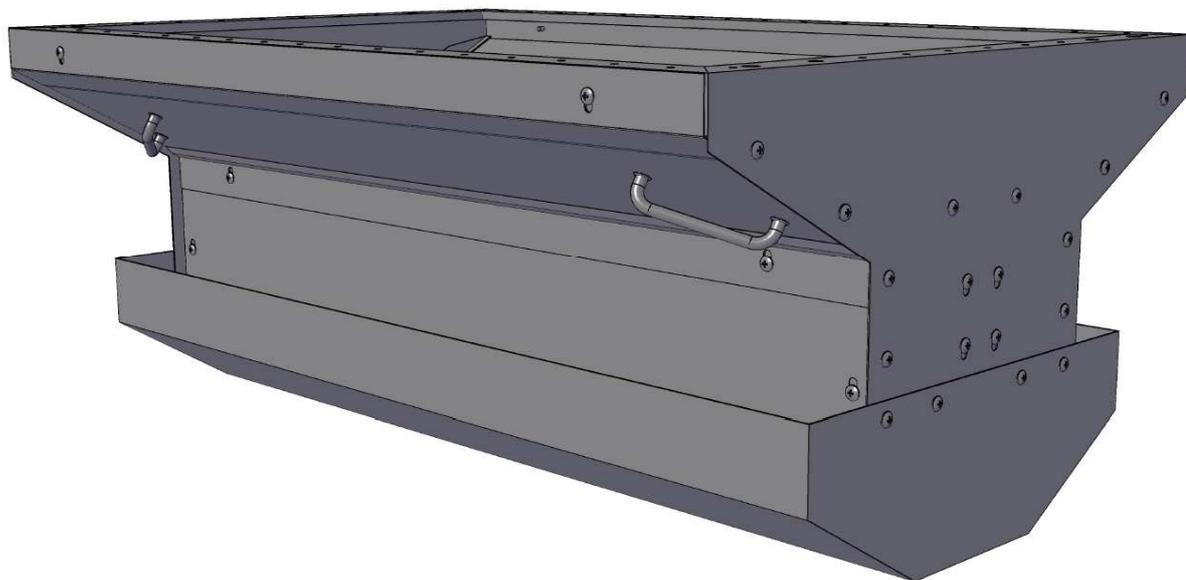
Kato

油脂分解グリス除去装置 水フィルター 株式会社加藤厨房設備

SOIL SCRUBBER

ソイルスクラバー

取付説明書



ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読み頂き、
本機の性能を充分ご理解の上でお使い下さるようお願い致します。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取付を行って下さい。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に取り付け、危害や損害を未然に防止するためのものです。



警告: 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。



注意: 人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。



警告

- 専門業者・技術者以外の方は、取付や修理・再設置をしないこと。
十分な性能を発揮できないだけでなく、事故や怪我の原因になります。



注意

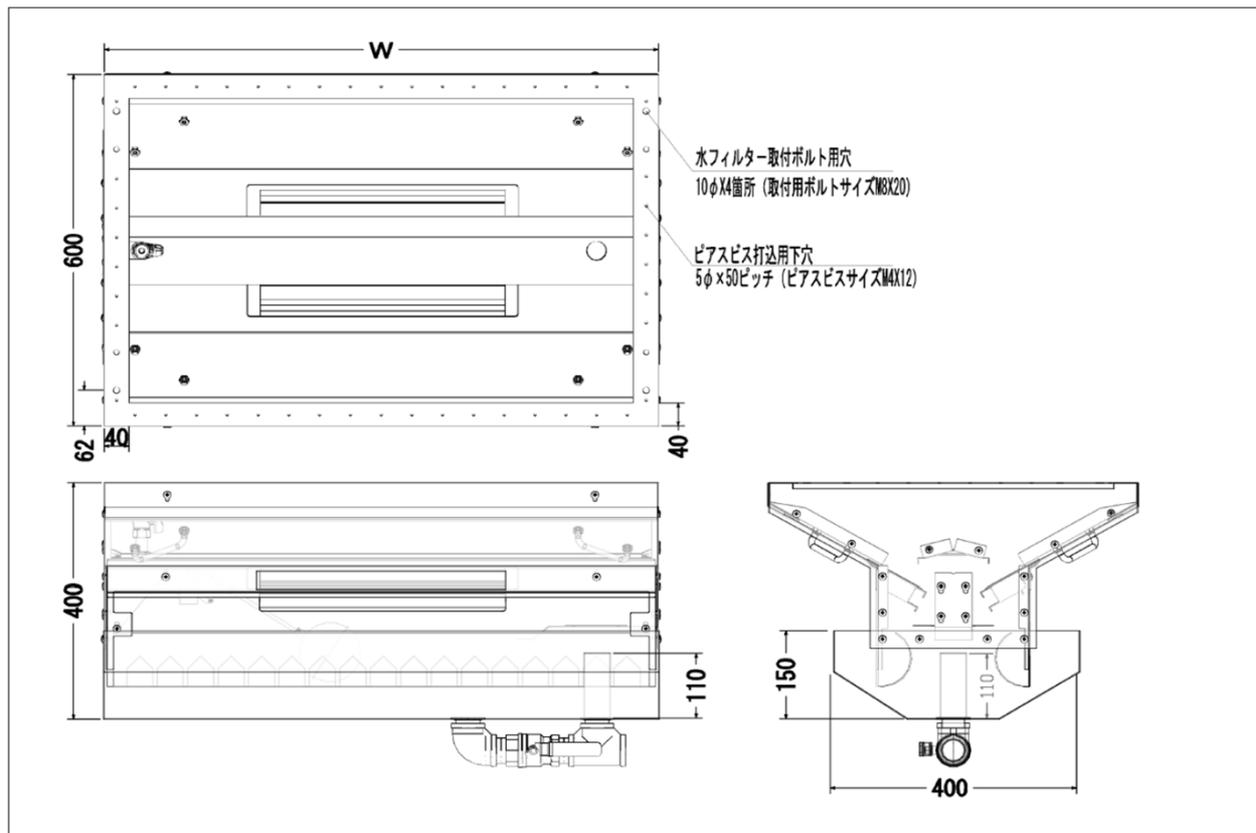
- 取り扱いの際は必ず作業用手袋を着用すること。
鋼板の切り口や角で怪我をするおそれがあります。
- 取り付け作業は2人以上で行うこと。
製品の重量があるため怪我をする可能性があります。
- 排気フードへの取付は、十分強度のある天板に確実に行うこと。
落下により怪我をするおそれがあります。
天板が薄く弱いと振動音が発生することがあります。
- 内部に構成部品以外のものは入れないこと。
故障や事故の原因になります。

●部品を取り付けるビスは確実に締めること。

故障や事故の原因になります。

油煙除去効率の低下の原因になります。

製品寸法図



取り付けに必要な資材

- 六角ボルト(ステンレス)(M8×20) 4本
フード天板とソイルスクラバー本体の接続に使います。
- 六角ナット(ステンレス)(M8) 4個
フード天板とソイルスクラバー本体の接続に使います。
- ピアスビス PAN(ナベ頭)(ステンレス)(M4×12)
※個数は本体のサイズによって異なります。
フード天板とソイルスクラバー本体の接続に使います。
- トラスビス(ステンレス)(M5×10)(付属品)
※個数は本体のサイズによって異なります。
部品の取り付けに使います。

●シール剤(空調ダクト用ニトリルゴム系シーラー)

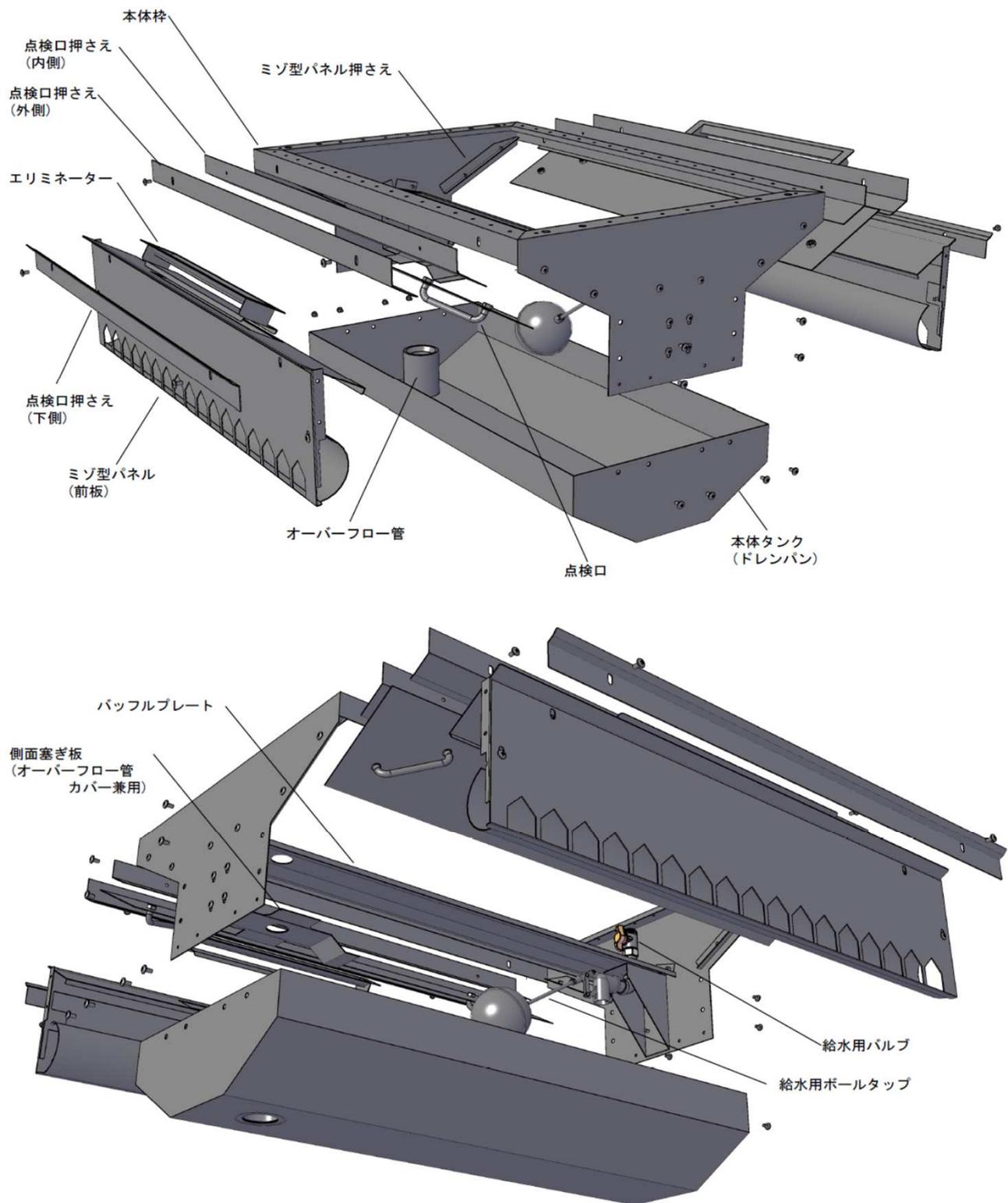
フード天板とソイルスクラバー本体枠のコーキングに使います。

●ステンレスフレキシブルホース(13A)

※給水元バルブからの距離によって異なります。

※フレキ用ゴムパッキンも使用して下さい。

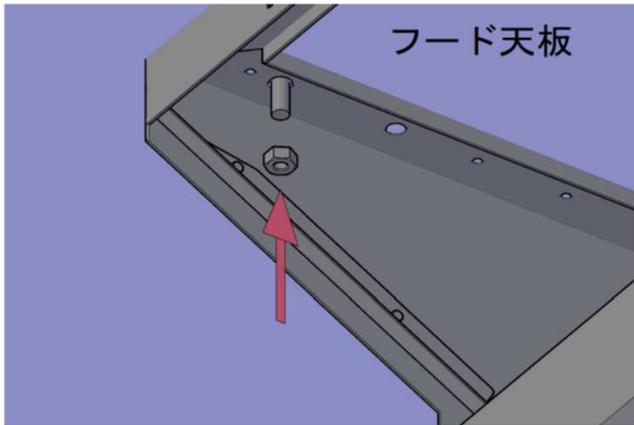
各部品の名前



取り付けかた

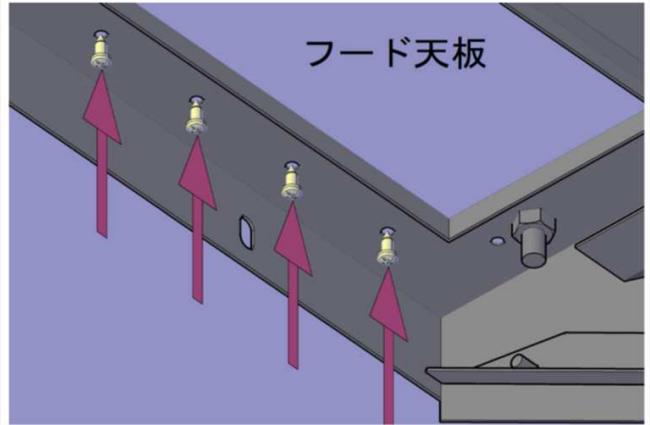
1

- フード天板外側からボルトを本体枠に通し、ナットをインパクトドライバーを使用して締める。(4箇所)
※点検口・点検口押さえ(内側・外側)・ミゾ型パネルは外しておく。



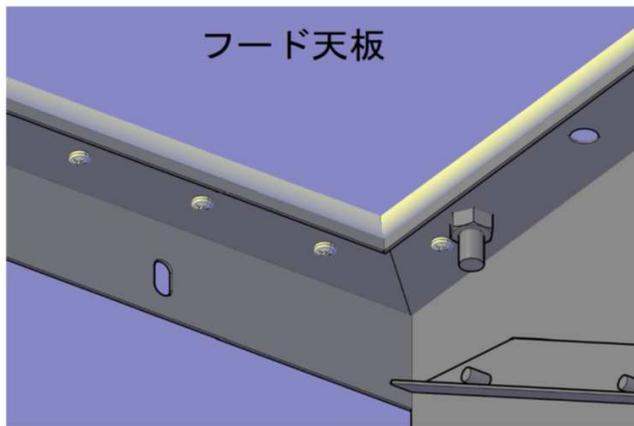
2

- インパクトドライバーを使用して打込み用の穴にピアスビスを打込み固定する。(正面側のみで可)



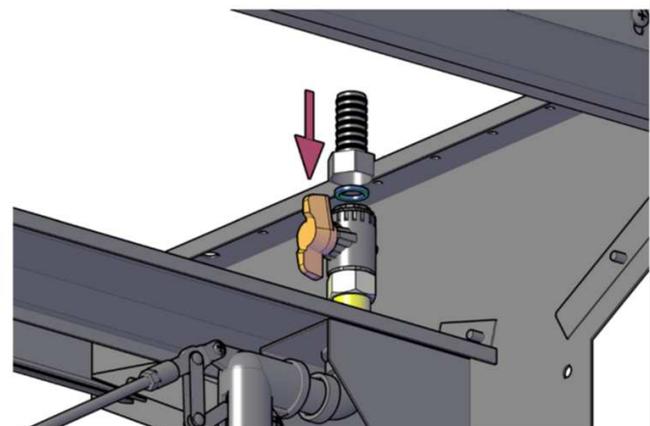
3

- フード天板とソイルスクラバー本体枠内側の隙間のコーキングを行う。(全周)



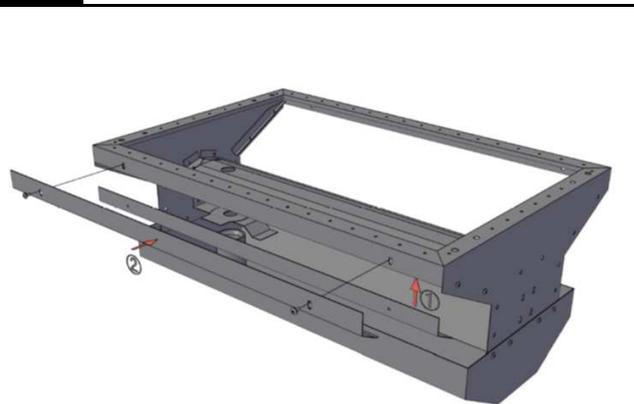
4

- ステンレスフレキの袋ナットを、パッキンを挟み給水バルブのネジ山にレンチ等で締め込む。



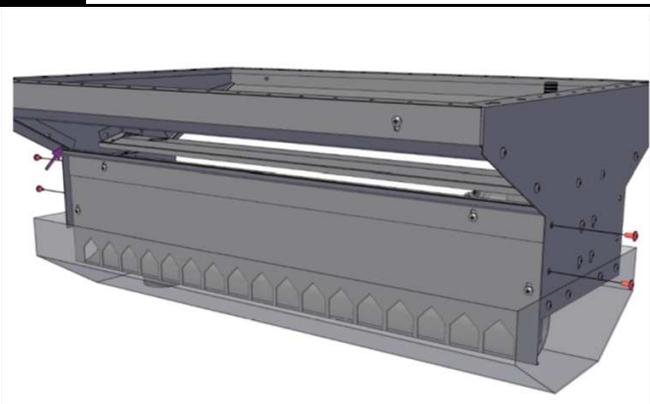
5

- 点検口の押さえを本体枠を挟み込むようにして、トラスビスで固定する。(仮止め)



6

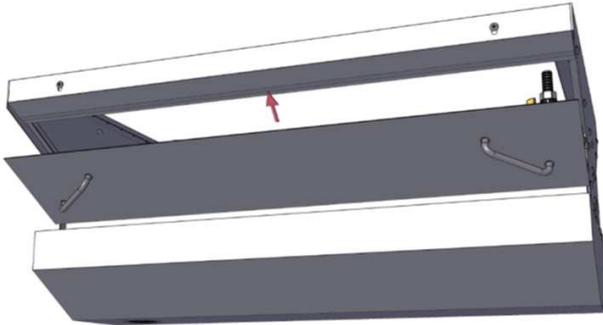
- ミゾ型パネルを本体タンクの手前から入れ、パネル押さえに押し当てながら側面をトラスビスで固定する。
※ミゾ型パネル1枚につき4個(片側2個×2)



取り付けかた

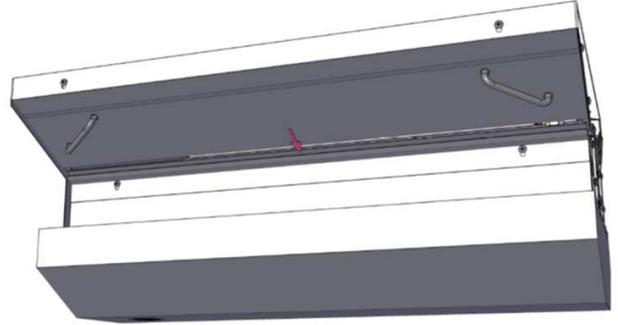
7-1

●点検口を本体枠の固定した内側の点検口押さえに押しあてながら、外側の押さえとの間に差し込む。



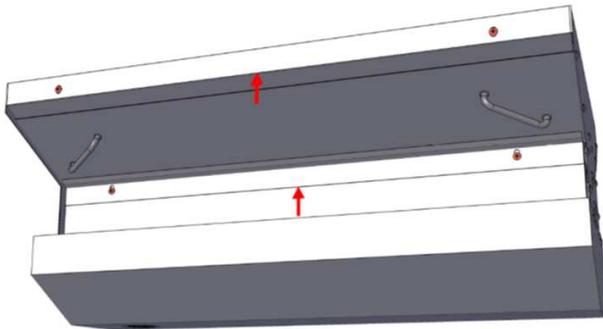
7-1

●点検口をミゾ型パネルについている、下側の点検口押さえとミゾ型パネルとの間にスライドさせる。
※隙間が狭い場合はビスを緩める



8

●点検口押さえ(本体枠側の2枚とミゾ型パネル側1枚)を上押ししながら、トラスビスの本締めをする。



9

●各所トラスビスの増し締めを行う。
※締め込みが緩いとネジの脱落や、振動による異音の原因となります。

●基本的に部品を本体枠の内側に入れ、外側からビス止めしている構造となります。
内側に入る部品にはタップが立っており、外側の部品には長穴か馬鹿穴が空いています。
長穴の部分は調整用に幅を設けています。馬鹿穴のは内側の部品との位置調整可能なアソビとなります。

試運転調整

- 排水の接続後、排気ファンが稼働できる状態で試運転を行って下さい。
- ファン停止時の水位が、本体タンクの底面から90～100mmで止水するように、ボールタップの位置調整を行って下さい。
ボールタップ外側のビスを緩めることで、長穴の幅分調整可能です。
- 静圧が230～280Paとなるように、風量調整シャッターやダンパーを調整して下さい。
(点検口の測定用穴に静圧計を差し込んで測定して下さい。)
静圧が230Pa以下だと機能が十分に発揮出来ません。
静圧が280Pa以上だとダクト内に水滴が吸い込まれる可能性があります。

お手入れ

- 調理油煙による油汚れは、アルカリ性の洗剤を吹きかけウェスで拭き取って下さい。
- 機器の排気能力が低下した(吸い込みが悪くなった)場合、除去した汚れの蓄積による詰まりが考えられますので、分解によるメンテナンス清掃が必要です。
メーカーもしくは委託業者にご依頼下さい。

[製造元]

Kato

株式会社 加藤厨房設備

ソイルスクラバー事業部

〒144-0042 東京都大田区羽田旭町2-6

TEL 03-3745-3141(代表)